

2010年12月14日(火)

報道関係者各位

笹川平和財団

【SPF 日米交流プログラム】
マイケル・オハンロン博士の来日に伴う個別取材のご案内

笹川平和財団 (SPF) は、12月16日～19日にかけて、マイケル・オハンロン博士(ブルッキングス研究所上級研究員・外交政策研究部長) を招へいします。これに伴い、報道関係者の皆様へ個別取材をご案内します。取材をご希望の方は、日時を調整しますので、以下の担当までご連絡下さい。

笹川平和財団 日米交流プログラム担当(村田、藤本)

電話: (03)6229-5441 Fax: (03)-6229-5473 Email: murata@spf.or.jp

*当日通訳は付きませんので、取材は英語で行って頂きます。予めご了承下さい。

オハンロン博士略歴: プリンストン大学卒業後、同大学で修士号および博士号を取得。専門は米国の防衛戦略・国防・外交問題。現在はプリンストン大学客員教授、ジョンズ・ホプキンス大学非常勤教授、外交問題評議会(CFR)および戦略問題研究所(IISS)のメンバーなども務める。2009年には国務長官の国際安全保障アドバイザー・ボードのメンバーを、2008-2009年にはデービッド・ペトレイアス将軍(米中央軍(CENTCOM)による中東安全保障戦略の見直しを実施)の非公式アドバイザーなどを歴任。近著には *Toughing It Out In Afghanistan* (Hassina Sherjan 氏との共著、2010年)、*The Science of War* (2009年)などがある。

滞在期間中、オハンロン博士は国内の有識者(政策立案者、研究者など)と会談するほか、17日には講演会「*Toughing It Out in Afghanistan- 岐路に立つ米国のアフガニスタン政策*」(17:00-18:30、於 日本財団ビル2階)を行います。ご興味のある方はSPFのウェブ・サイトからお申込みください(http://www.spf.org/event/article_6490.html)。

今回の招へいは、2008年7月からSPFが実施している「日米交流促進に向けて: 日米オピニオンリーダー交流」事業の一環として行われるものです。同事業は、日米両国のオピニオンリーダー間で重層的な交流を促進することにより、将来的に発言力のある知日派・知米派を輩出し、両国の知的交流基盤を強化することを目的としています。過去に、ノーマン・ミネタ氏(元商務長官・運輸長官)、ウィクター・チャ氏(ジョージタウン大学准教授、戦略国際問題研究所韓国部長)、ロバート・ケーガン氏(カーネギー国際財団上級研究員)、チャールズ・カブチャン氏(ジョージタウン大学教授、外交問題評議会シニアフェロー)らが来日しています。